

「教育県大分」 創造に向けた地域別意見交換会 in 大分 開催概要

[開催日：令和3年11月5日(金)]

[学校訪問] 大分市立王子中学校

[訪問者] 大分県教育委員会（岡本教育長、教育委員、教育次長 他）
大分市教育委員会（佐藤教育長、学校教育課長）

大分市立王子中学校では、「生徒にとって楽しい授業」をキーワードに、次のことを教職員だけでなく生徒全員で共有しています。

生徒自身が「できた」「分かった」という達成感、「他の人に支えられた」「自分のもっていない意見に出会えた」という共生感、「誰かの役に立っている」「何かの役に立っている」という効力感を、授業で実感し自信をもち自分のよさや可能性に気付いていくことを重視しています。

これは「生徒指導の3機能」を意識した授業改善と軌を一にする取組で、「新大分スタンダード」の要素を取り入れた授業改善が組織的に推進されています。



自分のもっていない意見に出会える授業を仕組む

[意見交換会テーマ] 「芯の通った学校組織」を基盤とした教育水準の向上
～不登校児童生徒への組織的な対応について～

[出席者] 学校訪問及び大分市立小・中学校長（小学校2校、中学校3校）

○不登校児童生徒への組織的な対応について

▶市の取組として、①大分っ子不登校対応マニュアルに基づく取組、②hyper-QU 検査の年2回実施、③SLS(スクールライフサポーター)の配置、④地域児童生徒支援コーディネーターの活用、⑤「エデュ・サポートおおいた」の取組(フレンドリールームでの支援、SSWの全校配置)等の取組が行われています。

▶出席小・中学校長からは、不登校の要因についてキーワードで示した内容について具体的に説明がありました。また、不登校対応において必要なことについてもそれぞれの考えをお話いただきました。学力や学校生活等への不安といった要因の他、保護者の考え方や生活・経済的な面での家庭の要因といった子どもたちを取り巻く環境等、不登校の要因が社会の変化と同様に複雑化・多様化してきており、校長先生方の挙げられた内容は相互に関連していることがわかります。



多様化する要因への支援策を充実したい
(大分市 佐藤教育長)

【不登校の要因として考えられること】



「心育て」 「不安」 「学力」 「保護者のケア」 「HSC」

【不登校対応において必要なこと】



「待つ・繋げる」 「安心」 「専門職員の増員」 「情報の共有」 「小中一貫」

▶教育委員からは、「学校は大変細やかに様々対応している。」「学校が全てに対応することは難しいので、学校は学校が対応すべきことを行い、家庭的に厳しいところにはSSWや民生委員、福祉等の専門職員が対応していく必要があるのではないか。」といった意見が出されました。これに対し、「専門職員を増やすには資格をもった方を確保する必要があるため、当面の対応として時間の延長を検討していく必要があるのでは。」といった意見が出されました。